

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見   | 回答   |
|----|--|--|
| 1  | <p>保育園に行っている子のお母さんから、「通園の通り道で、いつも子どもがあいさつしているおじいちゃんの姿が見えないが、状況がわかりますか」と聞かれ、把握していなかったため調べたところ、地域包括支援センターで対応しているとのことだった。自分たちも一生懸命見ているつもりだが、子どもの目も大事だなというのをつくづく感じた。</p>   | <p>とてもいい話をありがとうございます。</p>  |
| 2  | <p>新しく開発されて住宅が建っているところがあるが、親子で住んでいたり、自分たちで考えて施設などに連絡したりしており、あんまり手間がかからないところだと感じている。</p> <p>ただ、民生委員の後任になってくれる人がなかなか見つからない。やはり家族に対しても守秘義務があるので、家族の理解がないとできないのと、何気ない立ち話などでも気を使うということが理由にあると思う。相手の人に情報を聞かれて、答えられないという、それではあなたのところには情報はいかないと言われたことがあった。民生委員がやりやすくなるにはどうしたらいいのだろうと考えている。</p> | <p>後任がなかなか見つからないというのは、今回の市長と語る会を通して、ずっといただいているところであり、難しい問題だと感じている。</p>   |
| 3  | <p>ひとり暮らしの方でも、明らかにいらっしゃるのに、インターフォンを押しても出てきてくれないというようなことが何回かある。また、自分が訪問して話をしていると、通りかかった方々の視線を感じて、相手の方も言いにくそうにしていると感じるときがあったので、見守って訪問するのも難しいことがいろいろあると感じた。</p>   | <p>インターフォンを鳴らして訪ねても、何かの勧誘だと思ってしまう方が多いのかもしれない。同様の意見は、他の回の語る会でもいただいた。</p>  |
| 4  | <p>新しく民生委員になったが、自分になるまでは、今まで誰が民生委員をされていたのか知らなかった。元気で相談したいことはあると思うので、管理事務所などに、名前や電話番号を覚えておくといいのではないかと考えている。また、何か相談したいことがあっても、直接するのは抵抗があるので、まずはその手前で相談できる人がほしいという話をされたこともある。</p>   | <p>たしかに、いきなり民生委員に相談というのは、多少ためらうこともあるだろうし、どこかに紹介されてというほうが、相談する側も、また受ける側も、やりやすいと思う。1つの福祉の地域も文化センター圏域ごとという考え方を持っており、そこに福祉コーディネーターを設置し、困りごとがあった場合に相談を行うと適切な案内ができるという仕組みをつくろうとしているところである。</p> |

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見  | 回答   |
|----|---|--|
| 5  | <p>民生委員になって9年目だが、ようやく外へ出ると、民生委員さんと声を掛けられるようになったので、認識されるまでには年数がかかるのだと感じている。また、最初民生委員になったときに、ひとり暮らしのおじいさんに敬老のお祝い金を届けた際に亡くなられていたということがあり、民生委員というのは大変なことだと痛感させられた。</p>                          | <p>しっかりデータとしては把握していないが、おひとりで亡くなられて、数日後に発見されるというケースが、市でも毎年かなりの数があるというのも残念ながら事実である。</p>  |
| 6  | <p>以前孤独死の事件があり、自宅に家族などの情報が全然ない中、そのときに生かされたのは、以前に敬老の日のお祝いを届けたときに、たまたま伺った地方にいる妹さんの連絡先であった。ひとり暮らしの見守り事業がなくなってしまうなど、以前に比べてそのような方と接する機会が減っているのので、これから市の事業が削られることなく、こうしたかたちで情報をいただけるようにしてほしい。</p> | <p>数年前に、今回と同様に民生委員児童委員の皆さんと語る会を行ったときに、祝い金をお渡しする回数が減って、会って話ができる機会がなくなったという意見があった。確かに災害時要援護者名簿に載っている方以外は、なかなか訪ねる機会がなくなっているので、予算は削らないようにしたい。</p>  |
| 7  | <p>府中市でも悪質な生活保護の受給者がいるようだが、普通の生活をして年金をもらっている人と比べ、生活保護費のほうが金額が高い状況にある。金額は国で決めることで、市では改正することができないと言われたが、このことに関して、現在、府中市ではどのような対応をしているのか。</p>  | <p>生活保護を受給されている方は、年々増えているのは府中市も同じで、やはり高齢の方が増えれば、蓄えがなかったり、年金が十分なかったりということもある。ただ、不正受給をさせないというのは、心構えとして持っている。また、特に仕事ができる方には、ハローワークと連携して職員を派遣していただき、就労してもらうような努力もしている。</p>   |
| 8  | <p>私の地区は避難所が多摩川河川敷と小柳小学校だが、地域包括支援センターに市の人に来て、地区の地形の高さを見たときに、「小柳小学校は地形が低いので、川が氾濫したときに避難所というのは無理だ」とおっしゃっていた。それならば、そういうことをその地区の方々にきちんと説明していただきたい。</p>  | <p>恐らく、水害と地震とを切り分けての説明で、おととしの集中豪雨のときに鬼怒川で水害が起きたが、同じ量が多摩川の上流・中流、特に上流で降ると同じような状況になるだろうというのが、国土交通省の予測であり、そういった場合には、小柳小学校で避難生活を送るのは向かないということだと思う。水害については、来年度の予算で、改めてその考え方と初期行動についてまとめたものを作成して全戸配付するようにしている。とにかく、市が避難準備情報等を流した場合には、できるだけ高いところに移動していただきたい。</p> |

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見  | 回答   |
|----|---|--|
| 9  | <p>スポーツクラブに通っていた高齢のご夫婦が、自分の家で、スポーツクラブと同じようなことをやろうとしていて事故を起こしたことがあったが、近所の方々の通報で病院に行けたり、その後は地域包括支援センターで対応ができたなど、よく仕組みができていと思う。ただ、核家族化が進んでいるせいか、元気なうちはいいが、家にこもってしまうと近所のつながりが薄れてしまい、何かが起こったときの対応は、やはり息子や娘になってしまいがちなので、近所づき合いができていながらもかわらず、そうになってしまうのが難しいと感じている。</p> | <p>これまでの語る会でもそのような話があり、子どもはある程度育つと家を出ていき、家にしょっちゅう来てくれるわけではないので、元気なうちはいいが、一度病気や怪我をして家の中に入ってしまうと、なかなか目が行き届かなくなってしまうのが非常に難しい問題である。</p>  |
| 10 | <p>地域何でも相談員というものを引き受けたが、その中で押立、武蔵台文化センターに社会福祉協議会の方と一緒にいき、月1回いろいろな方と話しをする機会がある。今は押立、武蔵台文化センターだけが社会福祉協議会で福祉コーディネーターを配置しているが、これを11の各文化センターに拡大できればと思う。費用がかかると思うが、利用する人は多いと思うので、早急にやってほしい。また、時間中だけでもそこに詰めるような形にすれば、比較的情報も上がってくると思う。</p>                              | <p>6年前に市長になったときに、東日本大震災からまだ1年たたない中で、これからの地域のあり方をどうしようかと様々な方と話をしたが、11もの文化センターが地域の拠点としてある府中は恵まれていると感じた。というのも、他市の市長は、地域のつながりをつくるために改めてその拠点をつくろうとしたり、なかなか拠点はつくれないので学校ごとに考えていくなどいろいろ考えられていた。府中ではその文化センターに着目し、防災も福祉も、この圏域の地域の中である程度自己解決できないかという発想から、社会福祉協議会と連携して福祉コーディネーターの配置をしたり、自主防災連絡会というのをつくっているところである。ただ、これまで文化センターはどちらかというと、人々の交流、自主グループなどによる文化芸術活動の振興に重きを置いていたので、最初そこに福祉や防災が入ろうとしたときは、少し壁があったが、週に1回、福祉コーディネーターを置く場所を確保するところから少しずつ始めようとスタートしており、これは、これから時間や費用がかかっても進めていこうと思っている。</p> |
| 11 | <p>自治会や老人会に入られた方は顔がわかるが、入られていない方が結構いる。本当に高齢者の情報がないのが悩ましい。今の時代だと難しいと思うが、他市との合同の情報交換会に参加したときに、ある市では、高齢の方の情報を全部いただいていて動きやすいという話があった。</p>   | <p>自治会や老人会への未加入者がふえている傾向にある中で、情報が入ってこず、民生委員としてより活動したくても活動できないという声は多い。府中市の自治体加入率は60%ぐらいで多摩地域全体の中で一番か2番目くらいに高いが、例えば10年前とか15年前は70%ぐらいあったのが毎年下がってきている。また、老人クラブも、会長の後継者がおらず会が消滅してしまうケースもあるが、高齢者数が増えている中で会員数は減少ぎみに見える。高齢者の皆さんのどういう情報がお渡しできるかは研究し続けていかなければいけないと思う。</p>  |

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見   | 回答  |
|----|--|---|
| 12 | <p>ある病気で休養されている高齢者が、心配事があって地域包括支援センターに相談に行き、センターから私へ見守りの連絡があって本人から話を聞いたところ、引越し前に別の地区にいたときは、民生委員から毎週のように連絡があったが、ここに来たら何もなかったため、すごく不安だったとおっしゃっていたことがあった。そういう方の情報を出していただければいろいろと対応ができるので、本人が嫌がれば仕方がないが、最初に民生委員に情報を出していいか聞き、いいと言った方は知らせていただければ、見守りもしやすくなると思う。核家族化が進む中でお子さんを育てる若いお母さんにも同様に聞いていただければと思う。</p> <p>「支えあいのまちづくり」は、地域の中でその人がどれだけ回りの方とつながっていられるかということだと思うので、そのような面できめ細かい施策をお願いしたい。</p> | <p>転入の方は、かなりの数の方がいらして、例えば、ひとり暮らしの高齢者が転入されても目にとまらないと思う。人口がもっと少ない地域であれば、そういうことに気づいて、いろいろな情報を出すのかもしれないが、こういう都市部では、なかなか難しい。ただ、お話しいただいたように、そういった情報があればつながりがつくれたかもしれないとはやはり思う。私が協働というのは、まさにそこで、ひとりでは生きていけないので、そこに誰かの力をかりるということを市民の皆さんも行政側も意識していかないといけないと思う。転入は、どちらかという事務的に処理されてしまうので、例えば不動産業者と連携して情報をいただくことができるのかなど、業界の方との協働も考えられるかもしれない。子育て中のお母さんの孤立化も非常によくあるケースで、これからは高齢者だけではなく、子育ての地域包括というのが必要で、そういった態勢も整えようとしている。</p> |
| 13 | <p>(12の意見に関して)</p> <p>個人情報に関しては、今あまりにも過敏になっている。不動産業をしていれば年齢は分かるが、それは個人情報で出せないというきまりがあり、地域の民生委員さんに教えることができない。ただ、このような個人情報の問題もあるが、結局は、自助・共助・公助の問題があると思う。例えば、市で高齢者がひとりで転入をするときに、アンケートみたいなものを書いてもらい、必要ならば、地域包括支援センターに連絡してくださいとしたりとか、そこからまた民生委員につなげるなど、何か工夫ができれば、大分よくなると思う。</p>   | <p>自助と共助と公助については、3月11日にメール配信するコラムに書いたが、地震が起きたときに公助というのは最後になってしまうものと思うのでご近所同士や知り合い同士でつながっていくということも考え方として持っていけないといけないと思う。福祉、地域の支え合いに関しても、やはりどうしてもそうなるので、おっしゃるとおり、可能な限り、みずから発信するというのも必要だと思う。</p>   |

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見  | 回答  |
|----|---|---|
| 14 | <p>全国の民生委員の中ではITを使った資料もつくられていて、例えば、メールアドレスを民生委員全員に割り振り、そちらにレジュメや資料、詳しい情報の掲載先を送っているところもある。これは、そういうのは不得意だという民生委員もたくさんいると思われるので、すぐでなくてもいいが、これから10年、15年後を見据えて、府中市も今から少しずつ考えていっていただければと思う。</p> <p>また、民生委員の後任の問題については、見守りや相談は時間を見つけてできるが、会議や研修はその時間に行かないといけないので、時間に余裕がないと受けられないという問題があると思う。そのため、会議などはなるべく少なくしてもらえればと思う。実際に、東京都でそういうことをしている民生委員協議会も幾つかある。</p> <p>また、自分の地区内にあるマンションで、救急災害医療情報キットの中に入っている情報提供の紙をのり付けして封筒に入れたうえで管理人室で保管しておき、災害があったときはそれを開けて、まずは支援が必要な人の部屋を見に行くという仕組みをつくった。それと同時に、マンションにAEDを設置し、何かあったときは防災のベルを鳴らして、その階にかけつけるという取決めをした。4つのうち1つのマンションでできたので、自分でもするが、今後そういうケースを各マンションでやっていけるような働きかけを市としてもしていただければと思う。</p> |   |
| 15 | <p>新聞の記事で、青梅市がいざというときに市の職員が現場に駆付けることは難しいので、市内にある建設事業協会のようなところから、その傘下に入っている事業者と災害時協定を結び、震度6以上だと、市からの要請があったものとして、道路の応急的な処置や、障害物をどけるために皆さんが動き出すこととなっているとあった。府中市ではそういうのがあるのでしょうか。</p>   | <p>ほぼ同じ内容の協定だと思うが、建設業協会や電設業協会など、それぞれの得意分野を生かしていただけるような協定を結んでいる。</p> |

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見  | 回答   |
|----|---|--|
| 16 | <p>障害を持つ子どもや、高齢者が集うサロンの案内マップがそれぞれあるが、1冊にまとまっているとよいということで、社会福祉協議会で作成し、今回2回目の作成をして文化センターなどの施設に置かせていただいているが、1カ月や2カ月しか置けないなど制限が厳しい。ただ、いい紙でつくっているの、ずっと置いていただきたいという気持ちがある。内容をきちんと見きわめて判断してほしい。</p> <p>また、市として、地域に役割を担わせるような仕組みをつくっているの、ボランティア保険加入の補助があればと思う。</p>  | <p>役所らしい対応になってしまっている。</p> <p>また、民生委員の活動の中では、そういった保険がないとのことで、わかりました。</p>  |
| 17 | <p>わがまち支えあい協議会に参加しているが、参加者が少ない。あれが回り出せば、すごくいいことだと思うが、なかなか意識が伝わっていないのかなと思う。</p> <p>防災対策だが、自分の地域は70歳以上が110人ぐらいいるが、災害時要支援者名簿に載っているのは40人である。名簿に載らないということは、割り切ればあまり助けが要らない人なのだと思うところもあったが、実際はそうではなく、先日も、名簿に載っていない2人暮らしの方が2人とも病気持ちで、地域包括支援センターと協力して対応したことがあった。</p>  | <p>わがまち支え合い懇談会や高齢者のサロン活動など、市と連携して、社会福祉協議会でいろいろな取組をしていただいている。つまり社会福祉協議会には地域に入ってもらって、得意なところを生かしてもらっている。確かに、人が集まる場所もあれば、そうでないところもあるが、継続していくのが大事だと思っている。</p> <p>災害時要支援名簿は、本人の申請により登録されるので、希望されない方は、載らなくなる事も課題である。どんどん社会が変化している中で、新しい取組も考えていかなければいけないと感じている。</p>  |
| 18 | <p>約50年前に床上浸水するほどの災害があった。そのようなときのための対策が必要だが、先日、学校を回る機会があって思ったのは、学校は屋上が空いているので、ソーラーシステムを入れて、冬でも夏でも冷暖房が入るようにしていただきたい。また、学校だけではなく、高齢者や障害者の方もいろいろな施設を使うので、その対応も図っていただきたい。以前、府中市の全ての学校にエレベーターをつけるという話があったが、いつの間にか消えてしまった。そのほか、災害時は水道は出ないので、できれば、トイレは雨水を使ってほしい。トイレについては、境のところにマンホールをつくってもらい、災害時にトイレになるようにしていただければと思う。</p> | <p>市政スタートの昭和29年は人口5万人だったが、昭和30年代後半頃から急に人口がふえ始め、市政スタートから15年後には、10数万人になった。それに合わせて、昭和30年代中頃から50年ぐらいまで、たくさん学校をつくっており、今一番古い学校は、建ててから55～56年経っている。建てかえたばかりの学校は、二小、十小、三中、五中しかない。来年度からその翌年度にかけて、全て長寿命化や建てかえの計画を立てる予定であり、建てかえのときには、自然エネルギーや雨水の利用などを学校施設に取り入れていこうようになると思う。建てかえは、老朽化している学校から順番に、毎年2校か3校ずつ建てていかなければいけないと思う。また、マンホールトイレは、中学校は全てあるので、回りに囲いをつくるだけで水洗トイレと同じように使用ができる。ただ、今は、いろいろな非常時のトイレが出てきているので、それらを備蓄しようと思っている。</p> |

### 市長と語る会(H29. 3. 1市役所北庁舎)における意見及び市長の回答

| No | 意見   | 回答  |
|----|--|---|
| 19 | ある中学生が、親の育児放棄で家でご飯を食べられないということがあり、学校に行けば1回は食べられたが、休みに入ると困ってしまっていた。飲食店の組合の人をお願いをするなど、何かボランティアのようなもので対応ができないか。   | 今でも親の育児放棄で食に困っている子どもがおり、ほかの地区では、自主的に子ども食堂などをしていただいたりしているとのことだった。市としてどこまですればよいのかすぐにはわからないが、全体を調査して、いろいろと取り組みを考えていかなければならない。  |
| 20 | 保護者の中で、自分があまり学校に行っていなかったが、今はきちんと家を買って生活できているという場合に、子どもも学校に通わせなくても何とかなると考え、学校に行かせていない人が結構いる。スクールソーシャルワーカーの先生が家を訪問しても、親が起きないので、子どもも起きない。そういう家庭を何軒か見ていると、今の先生たちの人数だと対応しきれないと思う。私も主任児童委員という肩書があるが、免許や直接アドバイスができるような経験や知識はなく、学校の先生や市職員など、もう少ししつこく対応できるプロの手が入るような仕組みがあればと思う。 | 義務教育に行かせるのは親の責任だが、見過ごせない問題である。親がそうではなくても、ニートや引きこもりの状態になってしまって、助けることができなかったケースはあるが、さらに親の意識がそうだと厳しいものがある。くるるの中にあるたちでそういった情報を集めているので、気がついた情報はそちらにいただき、皆さんの応援ができるように市も頑張らなければいけないと思う。 |
| 21 | 最近新聞をとってないため広報が来ず、市でどのようなことをしているかを知らずに生活している方が多い。民生委員のことを含め、みんなに府中市のことを知らせる手段というのが一番大変だと思っている。   | 市としても、広報のほか、ホームページやツイッターなど、使える手段はいろいろと使っているが、なかなか伝わらないことが多い。以前の会で言われたが、皆さん実際に困っていないと周りの助けを必要とせず、急に困ったときに対応ができなかったというのが一番もどかしいということだった。何らかの新しいことに取り組んでいくということが不可欠である。              |